

むかしの暮らし

ひろ子さんは、おばあさんが子どものころの暮らしのようすを聞いてきました。



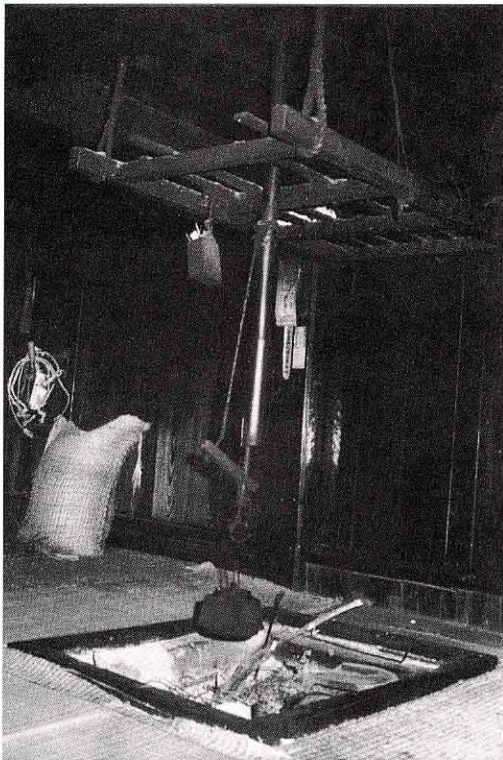
ひろ子さんのおばあさんのお話

わたしが子どものころは、いまのようなガスコンロや電気がまななくて、べんりなものはなかったんだよ。だから、いろりでお湯をわかしたり、かまどでごはんをたいたりしてね。

ごはんをたくときは、まきをもやすから、けむりが目にしみていたくなかったもんだよ。

また、まだ水道なんかなかったから、水は、井戸から運んでね。お風呂の水をいっぱいにするのに、おけにたくさん

水を入れて、何回も運んだものだよ。これが、子どもの大切な仕事のひとつだったんだよ。



むかしの農家には、いろりがかならずあったものです。

このいろりで、お湯をわかしたり、おつゆやにものをつくったりしました。また、このいろりは、まわりに家族が集まって、お茶をのんだり、話をしたりする一家だんらんの場でもあったのです。